

第5回とりアートオペラ公演企画委員会報告

日時 平成27年2月3日(火) 19:00~20:30 会場 倉吉市文化活動センター 1F 事務室

○報告事項⇒ガラコンサートの対応について、

①ガラコンサートの台本が示されました。ナンネルが語る魔笛という流れは了解されましたが、冒頭の「お兄ちゃんのアマデウス…」について、ナンネルは姉のはずだと指摘があり、演出の中村氏に意図を問い合わせることにになりました。また、演奏曲の一覧を見る限り、出番のない役があるのではとの問い合わせがあり、これも中村氏に問い合わせることにになりました。

②字幕スーパーについては、全幕届いており、総合プロデューサーが順次編集に取り掛かるとのことで了解されました。投影方法については、かつて県文化振興財団の自主公演「奥様女中」で実施した方法を採用することになりました。

③とりアートオペラ公演イベント「魔笛」ガラコンサートのチケット印刷が終了し、そのチケット販促計画が示され、了解されました。心構えとして**実行委員は、チケット完売を本務とすべし**(一人30枚を目標とする)及び出演者(地元演奏家は20枚を目標として依頼する)ことが了承されました。

④ポスターの配布については、**とりアート本部50枚**、中部実行委員会及び**とりアートオペラ公演企画委員会**で**50枚**を適切に貼付作業を行うことになりました。チラシの配布については、**とりアート本部に3000枚**、中部実行委員会に1000枚を配布していただく事になりました。ガラコンサート共催の**アザレアのまち音楽祭は、独自予算(アザレアのまち音楽祭2015の予算)にて倉吉市内全戸に配布予定**とのこと。

⑤「魔笛」演出の方向性の確定について、演出プロット(不毛な砂漠 これは、自然の作り出した美しい造形ではなくて、人間によって荒廃した廃墟としての砂漠 ザラストロは不毛の地に緑を植えている 徒労と思われるが、ザラストロの国の人々は静かに植え続ける)を提示し、了解されました。

⑥とりアート役務分担について提案され、マネージャー(①チーフマネージャーに鈴木百々子、②ソリスト・マネージャーに吉田章一、③合唱マネージャーに生原清明(西岡千秋・補助)、④舞台マネージャー⇒未定、⑤オーケストラ・マネージャーに山根修子、⑥運営マネージャーに計羽孝之)が再確認されました。

また、今後の仕事分担について提案され、大筋で了解されました。その中で、**演奏者の宿泊手配について、ゲストソリストは事務局が対応**すること、**オーケストラについては山根氏に一任**する事が了解されました。

ゲネプロ・本番のスケジュール調整は生原氏が策定することになりました。なお、ガラコンサートの開会式あいさつに、メイン事業部会の部長「小谷幸久氏」をお願いすることになりました。

⑦とりアート魔笛公演実行委員会2014年度予算執行中間報告があり、次の様な改定案が示され、了承されました。第一点は、**3/21~3/22のディクシオン経費は膨大**であり、2014年度経費では支出不可であるため、**5/10のガラコンサート経費に含める**ものとした。第二点は、ボーカルスコア買い増し、チラシの追加印刷等を支出し、**7,792円の残**となる。第三点は、これまで未払いの委員会等の印刷代を今後想定すれば、何とかおさまる見込みが報告されました。

○協議事項

□平成27年度の取り組みについて、次の様に決定しました。

(1) とりアートメイン事業オペラ公演ガラコンサート実施と運営について

①すべての練習会の**内容計画の策定**については、練習会出席一覧が整った段階で、**西岡千秋氏が提案**することで了解されました。

②**ディクシオン事前学習会**「2/15」は、ソリストの欠席が多く**3/15に変更**することが提案され、了解されました。3/15日は13:00までに集合し、ディクシオン研修会を一時間予定しています。したがって**2/15の練習会は中止**されます。

③**タミーノ**役はゲストのため、**アンダーが必要**と提案され、その設定については、西岡千秋氏に一任すること

になりました。合唱のメンバーの中に候補者はあるようですので、了解が取れ次第公表します。

④練習ピアニストの役割分担について、尾坂俊恵氏より提案され、了解されました。

⑤副指揮者の参加できる日は確定していますが、最後の調整を西岡千秋氏が行うことが了解されました。

⑥ソリスト・ディクショ^ン「高折績氏」研修会計画及び事前研修会計画については、吉田章一が立案することが了解されました。なお、当日の運営計画(講師の送迎、宿泊予約、運営スタッフの確定)については、生原清明氏が策定し提案することが了解されました。

⑦練習会運営計画・ゲネプロ(2015.5.9)の運営については、生原清明氏が提案することになりました。

⑧練習会・本番公演のオーケストラ対応は、山根修子氏に一任、ソリスト対応については鈴木百々子氏に一任することが了解されました。

(2) とりアートメイン事業オペラ公演本公演に向けての練習計画の実施と運営については、西岡千秋に一任。

・練習参加一覧表の作成は、計羽孝之が行う。

※合唱団員の確定については、早急に対処することになりました。既に合唱団員の決定は時間切れになっていますので、具体的な活動をする。また、現在までに決定している合唱団員名簿(住所氏名、電話、メール必須)を早急に完成させることが指示されました。担当は生原清明氏。

・火と水のダンサー規模の決定については、5+5の10人程度とすることになりました。その人選は、御船みゆき氏に一任することによって了解されました。

・子供ダンサーの規模の決定については、5人～15人程度となりました。その人選は、吉田奈穂美氏に一任することによって了解されました。

・合唱団練習計画立案は、今年度末(三月中)に西岡千秋氏が立案することになりました。

※事業計画について総合プロデューサーの計羽孝之より再提案がありました。

予算についての決定事項は次の通りです。

○入場料は一般3,500円、学生(大学生以下)1,500円とする。指定席券の発行については、継続審議とする。

キャパはオケピット設定で1,300席とし、その動員率を70%弱と設定する。一般席3,500×700席+学生席1,500円×150席と設定し、完売目標とする。

○予算書の再検討で、現状では150万円程度の赤字が想定されている事、また、その対応策として、とりアート本部より、予算の拡大補正を県に提出して頂いていますが、財務との交渉は楽観できない状況です。また、県文連の支援(鳥取オペラ協会が申請で得られる想定補助金)が受けられないかとの意向を、県の担当部局に相談中とのこと。万一、助成金が得られない場合は、舞台経費の割カットすることでしか対応策がなく、それを実施すると舞台の貧弱さにつながり、とりアート公演に相応しくなくなる見解が示されました。後は、県の対応待ちとのこと。

・スタッフの役割分担決定と業務タイム計画については、次回の企画委員会に提出とのこと。

以上、報告いたします。

文責 総合プロデューサー 計羽孝之